

Topic

COLUMN: 先生紹介 ▶ 塚原 瑞季 (今津教室)

勉強の合間にジャズでリラックス。癒やし効果が期待できます。



はじめまして、今津教室の塚原瑞季です。私もかつてはカイチの生徒で、中学1年生の秋から中学を卒業するまで諸口教室に通っていました。現在は事務スタッフとして開智で働いています。今回は、私が大学で所属しているサークルについてお話ししようと思います。私は現在、ジャズクラブ同好会NOJと

いうサークルでピアノを担当しています。名前の通りジャズを演奏するサークルですが、ジャズに限らずファンクやR&Bなど様々なジャンルの曲を演奏しています。入部を決めたきっかけは、入学式での演奏です。私の通う大学では入学式が大阪城ホールで行われるのですが、そこでの演奏がとてまかっよく、一瞬で魅了されました。そして、いつか私も大阪城ホールで演奏したいという一心で入部しました。クラシックと違ってジャズの楽譜には、メロディとコードしか載っていません。ですから、同じ曲でも演奏する人が違えば、アレンジの仕方や曲調、

曲の長さなどが違っていても自由度が高いです。自由度が高い分どのように演奏するのも私達で決めないといけないので難しいのですが、先輩方から様々な知識を教えてもらいながら日々練習しています。カフェやレストランのBGMでよくジャズが流れているのは、曲に抑揚がついていて長時間聴いても飽きがこない、癒し効果があるからだと思います。皆さんも、勉強の合間にジャズを聴いてリラックスしてみたいはいかがでしょうか。これからも生徒の皆さんが教室で思う存分、勉強ができるように精一杯サポートしていきますので、宜しくお願い致します。



マナロの ちょっぴり イイ話

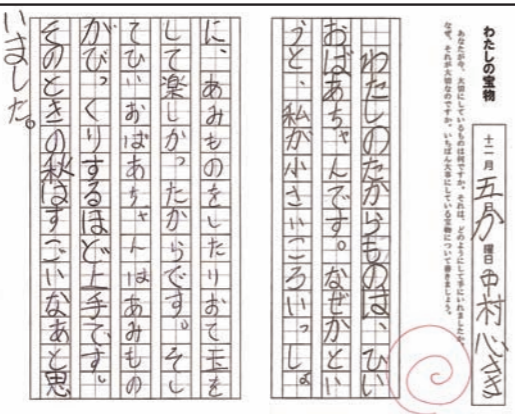
TEACHER'S VOICE マナロ 恭子 (上本町教室)

「わたしのたからものは ひいおばあちゃんです」

パスカルキッズでは、読書タイムの後に「5行日記」や「作文」をします。低学年のうちに書くことに慣れ、自分の言いたいことを文字に表す練習をします。初めの頃は、「きょう、わたしは、がっこうでなわとびをしました。楽しかったです。」というように2〜3行しか書けませんでした。書くことに少し慣れてきた生徒には、先生達はその文をもっと深く掘り下げるために色々な質問を投げかけ、「きょう、わたしは、学校の休み時間になわとびでじゅうとびをしました。5回つづけてとべるようになってうれしかったです。明日はもっととべるようにたくさんれんしゅうしたいです。」という文章に变身していきます。

それから、「何を書こうかな」とわくわくしながら書いてもらいたいという思いもあり、月に2回、作文のお題を出しています。例えば、12月には「私の宝物について」や、「もしも自分がサンタクロースなら誰に、何をあげたいか」を書いてもらいました。他にも家が逆さまにひっくり返っている写真を見て、ストーリーを考えて書いたり、ドラえものの4コマまんがのセリフを考えて書いたりもします。すぐに思いついて書ける子もいれば、なかなかアイデアが思いつかず、悩みに悩んで結局今日は書けなかったという場合もあります。作文もパスカ

ルの難しい文章問題と同じで、頭の中で悩むだけでなく、絵や図にして何か書き出さないと永遠に解決できません。日記・作文も、すぐに文にするのが難しい場合は、何について書きたいのか、キーワードをいくつか書いてみたり、先生と会話していくうちに書きたいことがまとまってきたりします。作文力は子供達の今後の人生に影響を与えることは間違いありません。中・高入試や、大学の論文、就職活動でのエントリーシートで上手な文章が書けなければ面接にさへ呼ばれません。しかし、訓練してすぐに身に付くものでもありませんので、小さいうちから文を書く習慣を身に付け、作文力を鍛える必要があります。パスカル生(年中〜小3)では、まず書くことに慣れ、書くことを好きになってもらう指導を心掛けています。私は毎月各教室から送られてくる子供達の作文を楽しみにしています。1つのお題に対し、子供達の想像力豊かな発想や、子供達一人一人の思いがたくさん見られ本当に感心させられます。中でも私が感動した作文は「私の宝物」の作文で、「わたしのたからものは、ひいおばあちゃんです。」と書いた関目生の作文です。ひいおばあちゃんへの尊敬の気持ちと楽しい思い出が書かれていて、とても温かい作文でした。「宝物」と聞くとやはり皆、自分が大切にしているキーホルダーや、おもちゃのことなどを書いたり、中には「宝物なんてない!」と言う生徒も少なくありませんが、作文のトレーニングが進むにつれ、自分が主体となる内容から、自分以外の人を主体とした内容に成長していきます。



今年は成年! ということで皆さんもパスカルキッズの「ビジュアル作文」にトライしてみませんか? 下の写真を見て下さい。いったいどうしてこのようになってしまったのでしょうか。ストーリーを考えて書いてみましょう。

カイチからのお知らせ

- 1月21日(日)は英検のテスト日です。英検クラスのみならず全員合格目指して頑張ろう。
- 1月30日(火)・31日(水)は小4〜中2の診断テストを実施します。
- 2月10日(土)・17日(土)は新年度の入塾説明・テストを実施します。珠算部やパスカル☆キッズより学習部へ入塾をご希望の方はご参加ください。新年度入会特典として教材費5,000円を無料とさせていただきます。
- 2月11日(日)は珠算1〜3級の検定試験です。 ■2月18日(日)は珠算段位の検定試験です。

生徒と保護者と先生の共有ニュースレター



【本 部】 城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201 TEL.06-6939-0008	
【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467

新年明けましておめでとうございます。 珠算競技大会、古市教室優勝!



高木 秀章 (塾長)

いよいよ新年が明けました。私のお正月と言えば、今年も例年通り、おいしいものを食べながら家族や親戚とたわいもない話をして、居眠りをして、また食べる…。「これではダメだ」とばかりに体を奮い起こし、初詣に出かけ、また、食べる。マンネリな過ごし方ですが、お正月はそれで十分楽しい。マンネリだからこそ楽しいのかもしれない。

今回のグロウイングには昨年12月9日に実施した珠算競技大会の結果を挟んであります。団体の部は古市教室が9年ぶりの優勝。栄えある最高得点賞は今福教室の森口宏佑君(6年生)、読み上げ算のカイチNO1は今福教室の幸田愛さん(小4)、読み上げ暗算のカイチNO 1は古市教室の幡奈々佳さん(なんと小3)が獲得しました。入賞した人はもちろん、残念ながら入賞できなかった人達も、とてもよく頑張りました。

今回の競技会の団体戦(学年毎のペーパーテスト合計点で勝敗を決定)は、古市教室が2勝、今福教室が2勝、関目教室が2勝の引き分けとなり、全学年合計点の僅か50点差で古市教室が今福教室を破り優勝しました。古市教室の皆さん本当におめでとうございます。

読み上げ、読み上げ暗算の決定戦はレベルが非常に高く、読み上げ算では、7桁〜18桁(百万円〜十京)の桁違いがおこなければ3年生以上は3位すら入賞できない(ソロバン日本一決定用問題集の最難関レベル) 暗算は残念ながら当日百万円台の正解がでませんでした。どの教室も横一線、誰が勝ってもおかしくないという戦いでした。私も教室に入りましたが、自分が指導した生徒達が、難易度の高い読み上げ算で他教室の生徒と競い合っている様子を、息が詰まるような思いで見っていました。

名場面は各学年の読み上げ算の優勝者が出場するカイチNo.1決定戦。各学年の読み上げ算のチャンピオンが、観客である大会に参加した全生徒と健先生(開智総合学院の創業者であり現会長)、他の先生達が見る前でずらりと並び、読み上げ算の決定戦を行います。

読み手の先生達は、レベルが拮抗する生徒6名の内たった1名だけを正解させるよう、難易度の高い問題を読み違わず、なおかつ、スピード・抑揚に変化を与え、優勝を決定しなければなりません。読み手の先生達も緊張でカチカチです。

読み手のトップバッターは、今津教室長の小田先生。かなり緊張していたでしょう。小田先生はどの生徒も練習したことのない負数計算(答えにマイナスが出る問題)をしかも最難関レベルの7桁〜18桁(百万円〜十京)の桁違いで読んでしまいました。全員不正解で競技再開と私達は考えていたのですが、なんと、その問題に小4の幸田愛さんが正解、小6の森口宏佑君もソロバン上は正解にも関わらず、数字の書き間違いという痛恨のミスで優勝が決定しました。

ソロバン日本一を多く輩出している浦和のソロバン教室USAの高柳先生がよくおっしゃる、「子供達の限界を決めるのは先生や親。限界を決めなければ子供達は無限に伸びる」という言葉を痛感した瞬間でした。

表彰式では優勝した、古市教室の女性の先生達が感激して、涙を流されていました。たかが、そろばんの大会かもしれませんが、この日のために、泣きながら練習を積んだ子供達や保護者の方々、そして指導してきた私達にとっては、かけがえのない1日となりました。

私は個人的に、この競技会で心に残った1シーンがありました。それは、私の父、現会長の高木健先生から「生徒と写真を取って欲しい」と言われ、写真を撮った時です。フレーム越しに、元気な子供達の中に埋もれている、健先生の姿が幸せそうで、とても収まりが良いように感じました。

冒頭、今回の古市教室が9年ぶりの優勝と書きましたが、その前は古市教室が5年連続で優勝しています。その時、古市教室を指導していたのが会長の健先生、毎年悔しい思いをしていたのが私でした。

生徒に囲まれ満面に笑う彼を見て、やはり、まだ彼には勝てないと感じた、一場面でした。



Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

「教え子」、そしてともに成長してきた「仲間」
～今福教室・中学3年生～

熊谷 真宏 (今福教室)

早いもので、2017年もあっという間に過ぎ、また新しい1年が始まりました。「気持ち新たに」というところですが、先生達にとっては、受験生達を最後まで見届けてようやく1年の区切りなので、ここからラストスパートです。今回は、受験に向けて一生懸命頑張っている中学3年生について書きたいと思います。私自身、この子達から非常に多くのことを学ばせてもらいました。そのうちのいくつかを紹介したいと思います。

私が今の中学3年生を初めて受け持ったのは、彼らが小学6年生のとき。担当は国語と理科でした。まず最初に印象的だったのは、とにかく「積極的」であること。特に理科の授業では、怒涛のように質問の矢が飛んできます。「なんでなん?」「どうということ??」どんなに些細なことでも、気になったら質問する。この姿勢を見たときに、私は「この子達は伸びるだろうな」と直感的に感じました。現に、このときに積極的に質問をしていた子達は、今は特進クラスでトップ校を目指しています。あの頃の積極的な姿勢は、もちろん今でも変わっていません。授業後の居残りの時間では、毎回遅くまで納得がいくまで質問をしていて、ときには居残りの指導終了時刻を回ることもあるほどです。彼らの質問に全て答えていくうちに、私自身も講師としての教科知識をレベルアップすることができました。とても感謝しています。

2つ目の特徴として挙げられるのは、「お互いに切磋琢磨できる」ということです。小学生の頃から、毎月の診断テストでは壮絶なデッドヒートを繰り広げていました。同じ人が1位を連続し

て取るということはほとんどなく、毎月順位が入れ替わります。それはつまり、各自がお互いをライバルと認め、お互いに負けまいと必死に勉強に励んでいたことを意味しています。本人達は気付いていなかったかもしれませんが、伸びるための理想的な環境が出来上がっていたのです。勉強は一人でやるよりも、仲間と一緒にやることで倍以上の効果が期待できます。また、この学年の子達はそれぞれ通う学校が違うにも関わらず、塾では本当に仲が良いのも見逃せない特徴です。テストではライバルだけど、普段は気の合う仲間という関係なので、居残りの時間でも分からないところをよくお互いに教え合ったりしています。これも伸びるために必要な要素ではないでしょうか。

そして、私がこの子達を見ていて一番すごいと思うのは、「当たり前のことを当たり前にする」ということです。例えば、普通の宿題を塾のない日に時間をしっかり取ってやる。分からないところはワークで調べる。調べても分からなかったところは、そのままにせずに居残りの時間などを使って先生に質問する。毎月の診断テスト前には、各教科の予想問題をそれぞれ完璧になるまで何回もやる。カイチに通っている子供達なら、どこかで聞いたことがある内容ではないでしょうか? そう、入塾する際に必ず先生達が読む、「開智総合学院使用上の注意」の内容とほとんど同じです。勉強で伸びるために、特別な方法なんて何も要りません。カイチでは、上に書いてあることをただ地道に続けることによって成績が上がるということを、徹底して教えます。

一つ一つを行うのは、別に何も難しいことではありませんが、一番難しいのは、それらを「やり続ける」ことを通じて、日々「努力を積み重ねる」ことだと思います。この子達は、小学生の頃からすでにそれが身に付いていました。中でも、特進クラスの上位層の子達の勉強に取り組む姿勢は本当に素晴らしく、私も見習わなければいけないと思うほどです。

この4年間、彼らが大切な思春期を過ごす中で、縁あってカイチという塾で彼らの成長のサポートに携わることができ、そして彼らが遅く成長していく様子を近くで見守ることができたのは、私にとって大きな喜びであり、誇りであり、そしてかけがえのない財産です。彼らは教え子であると同時に、私自身を成長させてくれた「恩師」でもあり、そして一緒に成長してきた「仲間」でもあります。私立入試まで残り1ヵ月。私立専願の子達と過ごせるのも、あと1ヵ月となり、寂しい気持ちもありますが、今はまだそんなことは言ってられません。まずは何としてでも、全員を第一志望校に合格させる。その信念を胸に、彼らと一緒に最後まで燃え尽きたいと思います。



Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



新たな年、原点回帰と新たな取り組み

坪田 陽一 (諸口教室)

明けましておめでとうございます。新たな年、皆様それぞれ新しい決意でスタートされたことと思います。

今回は、カイチの新年度の取り組みについて、まだ確定していない部分もありますが、「予告編」として、4つほどご報告したいと思います。

①集団指導のシステム変更～原点回帰

すでに9月くらいから徐々に変更していますが、あらためて報告します。集団指導において、映像授業を撤廃し、以前のライブ授業の形態に戻します。

昨年は、単元ごとの学習は映像授業を視聴して理解し、単元同士のつながりやまとめ、入試問題の解説などは講師が授業を行う形で進めていきました。定期テストや模試の成績は以前と変わらず上がりましたし、分からないところは何度でも視聴できたり、熱心な子は自習に来て自主的に映像授業を視聴したり、国語や理科など、各中学で進度が異なる場合もそれぞれ個別に対応が可能になったりと、プラス面も数多くありました。

しかし私達の中には違和感がずっとつきまどっていました。「このやり方で生徒は楽しいのか」「保護者の皆様はこういうやり方を望んでいるのか」「そもそも我々はこういう形の教育をしたかったのか」…そんな中行われた模擬授業大会。新人の先生方の研修の一環として、一人ひとりベテランの先生方の前で授業をしてもらいましたが、そこで若い先生方の熱心さ、吸収や成長の早さを目の当たりにしました。粗削りとはいえ、解説のうまさ、生徒への積極的な発問、授業後の検討での指摘の確さ、それらに大きな可能性を感じました。何より、彼らの「何としても分からせたい!」という真っ直ぐな思いが、ひしひしと伝わってきました。それは、指導技術以上に「先生」と呼ばれる存在にとって必要不可欠なもの。そう改めて気づいたときに、「…映像授業でそれは伝わるのだろうか?」という疑問がわいてきたのです。

もちろん映像授業に登場する先生方は一流であり、解説も上手です。しかし、多少つたなくても直接自分に語りかけてくれる先生の言葉の方が、心に刺さるのです。

そもそもカイチってどんな塾だったろうか。「厳しいけど、何かおもしろい先生がいて、熱心に教えてくれる」—そんな風に言われ続けて50年、地域に受け入れられてきた筈。やはり人を育ててきたができるのは人しかいないのではないかと。一部とは言え映像授業を使うのは、カイチらしさを捨てているのではないかと?

その後、社員の中でも様々な議論がありました

が、最終的には塾長が「原点に戻る!」と決断。映像撤廃、ライブ授業に戻るということになりました。授業研修を定期的に行うとはいえ、中には少々つたない授業があるかもしれません。それでも、直接ぶつかり合う中で生徒も、そして先生も大きく成長していけるのだと信じています。原点回帰するカイチの指導にご期待ください。

②カリキュラム変更～よりシンプルに

①の変更に伴い、新年度のカリキュラムも組み直し、よりシンプルで分かりやすいものになりました。昔から言われている勉強の王道は、

1. 1冊の良質な問題集を解く。

2. 間違い直しをし、苦手分野は教科書や解説を見て理解。

3. 分らないければ質問。
この繰り返しです。入試までは時間が限られています。たくさんのテキストや問題を解きまくるような効率の悪いやり方では、大多数の子は消化不良のまま本番に臨むことになってしまいます。上記のやり方なら、効率的かつシンプル。この考え方を全科目カリキュラムに取り入れています。テキストは、教材会社に直接行って話を聞き、また各教科主任が検討を重ね、学年やクラスに応じて最適なテキストを選びました。その上でテキストをやり切れるようにカリキュラムを作成しました。1冊をボロボロになるまで使い切ってもらいます。

また、中3生については、週3回の授業以外に週1回の講座を設け、そこで通常授業で扱わない中1、中2の復習部分を演習するとともに、学習の進め方や進捗状況のチェックをします。また定期的に模試過去問を解くことで実力を測るようにしていく予定です。受験で勝つには、早くスタートを切るのが一番。3月から早速開講する予定です。

③TKへの英検対策、英検講座導入～より目的を明確に

現在開講しているトーキングキッズ(TK)について、英語力を伸ばすために、英検対策を導入し、目指すべき目標をより明確にします。英検については、現行の大阪府公立高校入試で英検2級取得者は英語の得点8割が保証されますし、大学入試においても、ほとんどの有名大学で取得者は優遇されます。このように入試で有利になるので、英語を学習するのなら英検は取得するべきだと思います。そのために、外国人講師と日本人講師がペアとなり、外国人講師はこれまで通り「Speaking(話す)」と「Listening(聞く)」を鍛え、日本人講師は中学英語につながる文法事項を教えることで「読む」「書く」を鍛えていきます。また試験直前には対

策講座を別日に設け、級の取得に向けて徹底指導していく予定です。

また、学習部の小4～小6の英語の授業でもこの方法を一部取り入れて、中学英語の準備を行います。

④新教室「カイチ予備校(仮)」～大学入試まで対応
いよいよカイチも高校生対象の教室をスタートさせます。とはいえ、この記事を書いている段階では、教室の場所が決まっています(笑)。決まっていることは、

1. 大学入試までプロの先生がしっかり面倒を見ること。

2. 英語・数学は集団指導がメイン。他教科や対応しきれない部分は映像授業や個別指導で補充すること。

3. 学習の仕方(テキストの使い方、スケジュールの組み方等)を指導すること。

4. 値段はリーズナブルであること。
特に3が重要です。高校生になると、中学より学習内容が難化するにも関わらず、ついサボりがちななり、結局高校の授業内容だけでも消化不良になる生徒がほとんど。それを避けるために、参考書の使い方や学習戦略をアドバイスし、まずは定期テストできちんと結果を出します。そのように高1からきちんと計画を立てて学習し、国公立なら旧帝大レベルの志望大学、私立なら関関同立、産近甲龍への合格を目指す、そんな予備校です。3月開講を目指して対馬先生を中心に現在急ピッチで準備を進めています。詳細についてはまた別の機会にお知らせいたします。

今年も新たな決意のもと社員一同一致団結して、生徒や保護者の皆様のためによりよい学習環境を提供していきたいと思っています。そして、カイチらしさを失うことなく、皆様に愛される最高の塾を目指してまいります。ぜひ厳しくも温かい目で見守っていただければ幸いです。

